

- ・R2～4年度に開発事業を行い、R5年度は試作品の改良、安全性試験、嗜好性試験等を事業として実施。
- ・R6年度は、製造体制を整備の上、国産経口ワクチンの散布を目指す。

○開発事業（R2～4年度） 試作品を開発

○早期実用化事業（R5年度（R4年度補正予算））

■ 豚熱経口ワクチン内製化推進事業（予算額：30百万円、委託事業）：

- ①試作品の改良、②安全性試験、③安定性試験、④野外での嗜好性試験

実施機関：農研機構（動衛研、畜産研）、塩野香料（株）、共立製薬（株）からなるコンソーシアム

■ 豚熱経口ワクチン実用化促進事業（予算額：18百万円、補助事業）：

実施機関：共立製薬 ⑤ワクチン液中のウイルス増殖性の向上

ベイト剤（改良型）

- ・食品工場の副産物といった低コストかつサステナブルな素材を利用
 - ・イノシシ誘因香料を添加
- 散布試験において、高い誘因効果、採食効果を確認（①、④）

抱合剤（改良型）

バイオフィルム（生分解性素材）を利用（納豆のからしパックのような形）（①）

ワクチン液：豚の培養細胞での増殖（⑤）、実験豚での免疫効果・安全性を確認（①、②）

○増産加速化対策事業（R6年度（R5年度補正予算））（予算額：150百万円、補助事業）

- ・残った課題（免疫賦与率（イノシシのワクチン摂取率）、安定性（熱及び外環境）の向上等）を解決
- ・ワクチン製造に必要な機器を導入し、製造体制を整備

実施機関：塩野香料（株）、共立製薬（株）、（株）津田

→試作品についてR6年度中に散布実証予定